



## いま話題の「水稻の再生二期作」とは?

霜が降り始める11月。当市農業委員の加園秀信さんの圃場で2回目の稻刈りが始まりました。

水稻の再生二期作とは、つくば市の農研機構が研究・開発した新しい農法で、稻刈りをしたあとの切株や根本から再び生えてくる「ひこばえ」をもう一度収穫するというものです。これまで、気候が温暖な西日本での栽培事例が多く見受けられましたが、昨今の温暖化に伴い北関東地方でも実現に向けた取組が進んでいます。加園さんの圃場では、農研機構と協力し、昨シーズンから再生二期作の実証栽培を行っています。再生二期作の二期目の収穫量は一期目より劣るものの、通常どおり収穫した一期目と合わせれば収入増が見込まれるため、農家の収益向上につながる農法として注目されていますが、実証栽培を通じて新たな課題も見えてきました。

◀◀ 3ページに記事が続きます

### 主な内容

- 市長に意見書を提出しました
- 合同視察研修を実施しました
- 農地利用意向調査を実施しています
- 第2回農業担い手講習会を開催します
- 地域計画に位置付けられた農地の転用について
- ソーラーシェアリングのガイドラインがあります
- 水稻再生二期作について
- 気になる! 農家インタビュー
- 各種お知らせ

## 市長に農地等利用最適化推進施策に関する意見書を提出しました

令和7年9月29日、五十嵐市長に「令和8年度つくば市の農業施策に対する意見・要望書」を提出しました。この意見書は農業委員会等に関する法律第38条第1項に基づくもので、農地利用の最適化を効率的、効果的に推進するための施策の改善について、具体的な意見をまとめたものです。

五十嵐市長からは「頂いた御意見・御要望はごもっともあり、全てにおいて取り組んでいきたい。」との所感を頂きました。今後も、つくば市と連携を図りながら農地利用の最適化を推進してまいります。



意見・要望書提出の様子



意見交換の様子

主な内容は以下のとおりです。

### ① 農地の保全と有効利用対策

- ① 経営改善支援策の強化
- ② 農地の基盤整備等の推進について

### ② 担い手・経営対策

- ① 経営改善支援策の強化
- ② 新規参入促進による持続可能な農業構造の実現
- ③ 農業新規参入を加速化する農地マッチングシステムの構築

### ③ 持続可能な地域農業の確立

- ① 地産地消の促進
- ② 鳥獣被害への対策強化

### ④ 環境に配慮した農業への支援

- ① 有機農業の普及推進
- ② 気候変動に対応した農業の普及推進

## 合同視察研修を実施しました

他自治体の先進的な取組を学ぶため、農業委員と農地利用最適化推進委員による合同視察研修を実施しました。今年度は、神奈川県のいちごよこすかポートマーケット様、千葉県のヨシダ米屋様、及び道の駅保田小学校様を訪問しました。いずれの事業者様におかれましても、単なる販売や飲食だけでなく、「知ること」や「体験すること」に重きを置いておられ、大変参考になりました。現在つくば市でも「道の駅」の整備計画が進行しておりますので、得られた見識を市の農業発展に活かしてまいります。



視察研修の様子

## 農地の利用意向調査を実施しています

今年度の農地利用状況調査の結果、再生利用が可能な遊休農地と判断された農地の所有者の皆様へ、郵送または訪問にて今後の農地の利用意向をお伺いしております。農地の保全と利活用推進のため、御協力をお願いいたします。

再生困難になる前に! 農地の利用方法を考えましょう。

農地の貸借の相談はお近くの農地利用最適化推進委員まで。



## 第2回 農業担い手講習会を開催します



先輩農業者がどのようにして有機農業を実践しているのか、そのノウハウを学び、有機農業における疑問を解消するための講習会を開催します。

今年度第2回の講習会では、実際に有機農業を行っている圃場を見学し、意見交換・交流をしていただく予定です。詳細については、市ホームページ等でお知らせいたします。



第1回講習会の様子



## 地域計画の変更が必要な農地転用にご注意ください

農業経営基盤強化促進法の改正により、つくば市は令和7年3月に地域計画を策定しました。これに伴い、地域計画に位置付けられた農地の転用を行う場合、一時的な利用に供する場合を除き、**あらかじめ**地域計画の変更手続きが必要です。

**地域計画変更前でも転用許可にかかる事前相談は開始できますが、農地転用許可申請は地域計画変更公告後になります。**

地域計画の変更手続き開始から、農地転用許可まで**4か月から5か月**程度時間を要しますので、ご注意ください。

地域計画の変更手続きについては、つくば市農業政策課へお問い合わせください。

地域計画に  
についてはこちら



## ソーラーシェアリングのガイドラインがあります

つくば市農業委員会では、支柱を立てて営農を継続する太陽光発電等（ソーラーシェアリング）の農地転用の申請についてガイドラインを策定しております。事業をお考えの方は、ガイドラインに沿った手続きをしていただきますよう御協力をお願いいたします。



COLUMN

コラム

## 水稻の再生二期作について (P.1 の続き)

加園さんの圃場で二期作の品種として選ばれたのは新潟生まれの「つきあかり」。早生品種のため、早く収穫して二期目の生育期間を長く確保できます。二期作では最初の収穫時に40cm程度の高刈りが推奨されますが、自脱型コンバインでは20cm残すのがやっとです。それでも穂は3か月で実をつけ65cm程度まで成長。収穫の結果、二期目の収量は1反あたり3俵半となりました。課題として、一期目の収穫時にコンバインで踏んだ稻は生育が悪くなる傾向がありました。他にも、二期目の防除の時期が一期作の圃場の収穫と被って多忙が生じるという大変さもありました。また、現行制度では農薬の使用回数を一期目と二期目の合計で数えるため、農薬使用基準の再整理の必要性を感じられます。再生二期作が広く普及する農法となるのか、今後の動向に注目です。



加園委員



二期目の稲穂

